

Q. 市民から意見を聞いて他と差別化した高梁らしい図書館を

A. アンケートやワークショップの意見を反映したい



ここを聞きました

- 駅前複合施設について
- 防災対策について
- 市の広報活動について
- 移住者、転入者への説明について

市民の意見を反映した高梁らしい図書館を

石井 図書館のあり方は歴史とともに変わってきている。ただ流行にのるのではなく、図書館の中に高梁らしさを込めるためにも、住民の意見を聞くべきでは。

教育次長 平成24年12月から、各年代へのアンケート、11回のワークショップを行った。いただいた意見を反映させるよう努力していきたい。

住民が行政に参加しやすい開かれた市政を

石井 今回の質問に徹底しているのは、市の行政に対してもっと市民を参加させてほしいということだ。コミュニティFMも図書館の市民参画も、そして広報紙への市民参加もそのためのものがある。高梁市のような自治体は、今後は市役所に任せておけ

ば何でもやってくれるという意識ではなく、本当の意味で住民が自分たちの町を経営していく住民自治が必要になってくる。そのためにも市役所からも住民に対して色々な形で門戸を広げていただきたい。

市長 これからは行政がしてくれるのを待つ時代ではないと思う。もちろん行政も同じで、高梁から国に対して発信していくことも大事だと思っている。住民が行政に参加していただく手法は多岐にわたっていると思う。それを職員もしっかりと勉強していかなければならない。



Q. 防災マップは上手く機能しているのか

A. 防災意識を高める努力をする



ここを聞きました

- 自然災害への対応について

防災マップについて

三村 災害に備えて防災マップを作成し全戸配布しているが、うまく活用されているのか。

市長 さまざまな機会を通じて防災意識を高める努力をしていきたい。

三村 市内には土砂災害警戒区域が858カ所あるが、どこが指定し、どう対応しているのか。

産業経済部長 県が現地調査をもとに指定している。

三村 避難場所に多くの公共施設が指定されているが、耐震基準はクリアしているのか。

総務部長 旧耐震基準の施設もあり、地域の実情も踏まえ見直していきたい。

三村 災害対応にも安全センターを活用してはどうか。

市民生活部長 安全センターは福祉施設としてのシステムであり、防災への対応は難しい。

急傾斜地崩壊対策事業について

三村 安全・安心なまちづくりのために急傾斜地崩壊対策事業を取り入れてはどうか。

産業経済部長 市民からの情報提供をもとに県に要望を行っている。

耐震改修促進について

三村 市内にある建物の耐震化率はどのようになっているのか。

産業経済部長 平成25年度末で67%と推定している。

三村 木造住宅等の耐震診断には補助制度があるが普及啓発はどうするのか。

産業経済部長 県や建築士協会と連携し耐震化向上に努めたい。

Q. 市街地における認定子ども園の取り組みを早急に

A. 来年度からできる取り組みを進めたい



ここを聞きました

- 農業施策について
- 子育て支援について

農業施策について

内田 人・農地プランの作成を推進しているが、この制度の必要性についてどう認識しているのか。

産業経済部長 地域農業が抱えている問題を解決する手段の一つとして、プランを作成して地域全体で取り組む必要がある。

内田 この制度への取り組みは旧町の旧村単位でなされているが、現状と今後の推進方法をどうするのか。

産業経済部長 現状は小学区単位で取り組んでいる。平成24年度で3地域。平成25年度で5地域がプランを作成している。平成26年度では10地域が作成をする予定で、全体では18地域が人農地プランを作成する。

内田 第3期中山間地域直接支払

制度は平成26年度末をもって終了するが、平成27年度以降の日本型直接支払制度にはどのように対応するのか。

産業経済部長 9月に国から県へ説明があると確認している。市としても注視している。

内田 市街地の公立幼稚園2園、保育園1園では園児数が偏りが生じている。計画では3園を一体化した認定子ども園を整備するとしているが早期に取り組むべきではないか。

健康福祉部長 国の所管に違いはあるが平成27年度からできる取り組みをしたい。

内田 周辺地域の保育園で公的な送迎をすべきではないか。

市長 さまざまな障害があるが、前向きに検討したい。

Q. ヴィラの活用について市として積極的に考えるべきではないか

A. 観光アクションプランの中で、提案していただければ早急に検討し活用につなげていきたい



ここを聞きました

- 吹屋国際交流ヴィラの活用について
- 外国人観光客の誘致について
- 「備中高梁元気!プロジェクト」について

吹屋国際交流ヴィラの活用について

森田 岡山県より、平成21年3月末をもって市へ施設移管された吹屋国際交流ヴィラが、現在まで活用されていない。活用について地元団体へ投げかけるだけでなく、市として積極的に考えるべきではないか。

市長 ヴィラが現在まで活用されていないのは残念に思っている。県から施設移管を受けた平成21年3月時点で、地元で使用したいとの意向があり提案を待つこととしていた。現在4地区で組織している観光アクションプランの中でヴィラの活用について提案をいただけると思っている。例えばゲストハウスとしての活用、またこの施設でおもてなしの事業をしてい

ただくというような考えもあると聞いている。ヴィラ施設は建物としても外観と周囲景観が調和している。壊して建物がなくなるのは景観上よくない。提案をいただいたなら早急に検討し対応したい。

外国人観光客の誘致について

森田 市長は、交流人口の増加により地域を元気にしたいと言われている。その中で外国人観光客の誘致に向けての戦略はあるのか。

産業経済部長 過去3年間の高梁国際ホテルへの宿泊客においても外国人観光客は1割から2割ふえてきている。県においては、外国人観光客を進めるための「岡山県外人観光客受け入れ協議会」をつくっている。高梁市としてもこの協議会への加入を検討したい。